

どるい 土塁構築方法

水門のある土塁の列石前面において土塁を築造する際に支柱として使用されたと考えられる直径30cmの柱と版築の堰板^{せきいた}として使用されたと考えられる長さ395cm、幅25cm、厚さ1.5cmの板材も確認されています。また、柱は土塁中からも検出されており、この柱は列石前柱と組み合わせ、さらに板材（堰板）を使用し、列石を基礎に据えた土塁を築いたと考えられます。この土塁中の柱は約3m間隔で検出されており、土塁上まで出て柵として機能していた可能性も考えられます。



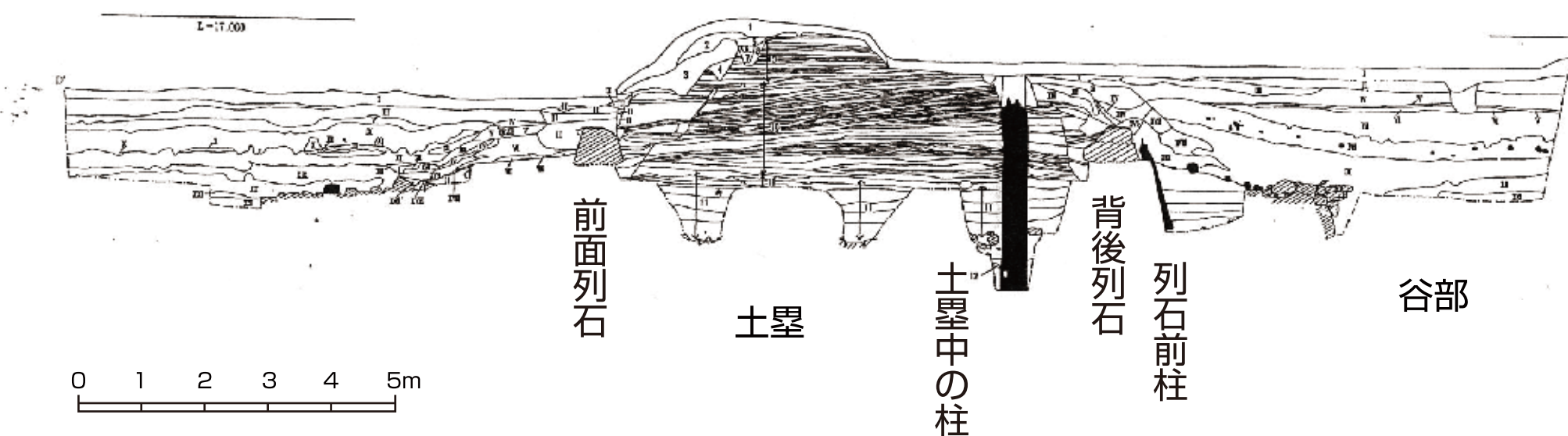
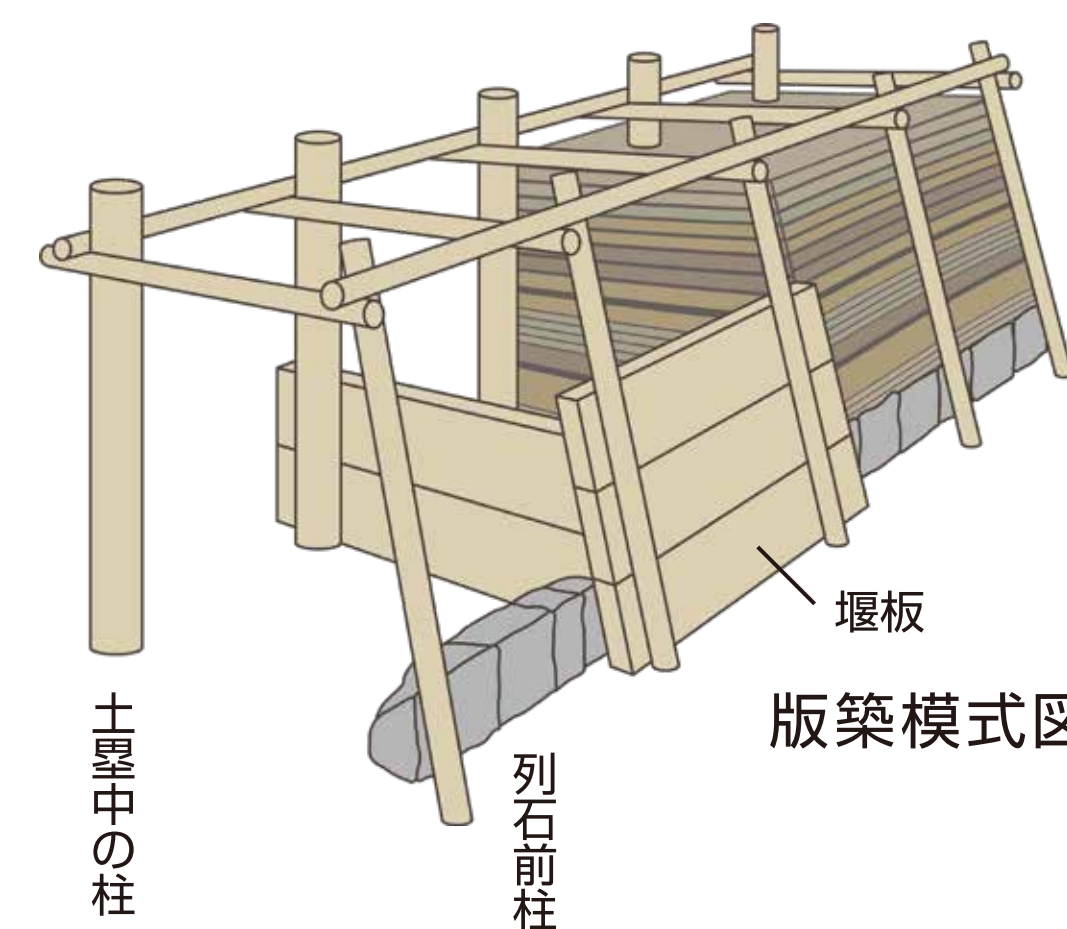
土塁中の柱



土塁土層



列石前柱と堰板



土塁土層図